読書のすゝめ

その40　H29　1／20

図書館へ行ってみよう♫

新聞書見台に続き、**新聞立て・ディスプレイ書架2台・移動式展示テーブル**が副技師小室さん・菅原さんの手作りで出来上がりました。

新聞立ては新聞が取り出しやすく、とても使い勝手がよくなりました。読売新聞・茨城新聞・毎日新聞の3紙を当日分と昨日分に分けて立てておきます。見たい新聞を書見台に広げて見てください。

また、3年の図書委員さんが、さっそく日本文化特集コーナーのPOPを作ってくれました。大きめの書架はテーマに沿った展示ができると思います。今回は映画化された本をチラシとともに展示してみました。側面には透明なボードで差し込み展示もできます。とてもおしゃれな書架です。

日本文化特集！

とてもおしゃれな書架です！

ありがとうございました。使いやすい図書館を目指し、いろいろな工夫をしています。みなさんのリクエストも待っています。

新聞立て

手にやさしく心にあたたかい！

芥川賞・直木賞発表！（日本文学振興会）

37号でも案内していた第156回芥川賞・直木賞（平成28年度下半期）が発表されました。

芥川（龍之介）賞・・・山下澄人『しんせかい』（新潮7月号）

直木（三十五）賞・・・恩田 陸『蜜蜂と遠雷』（幻冬舎）

恩田さんは宮城県仙台市出身ですが、水戸第一高校の卒業生です。水戸一高の学校行事を題材に描かれた『夜のピクニック』はみなさんも読んだことがあると思います。この作品は「第2回本屋大賞」「第26回吉川英治文学新人賞」を受賞しています。「第3回ファンタジーノベル大賞」の候補作となった『六番目の小夜子』でデビューしましたが、『ユージニア』『蒲公英草紙 常野物語』『きのうの世界』『夢違』『夜の底は柔らかな幻』など、これまで5回「直木三十五賞」の候補となり、6度目の候補で念願の受賞を果たしました。数々の賞をとる実力者ながら、なかなか直木賞を手にすることがかなわなかった作家です。

受賞会見で「直木賞作家になりました」と笑顔で語った一言がとても印象に残りました。

（補足・蛇足）

芥川賞・直木賞は1935（昭和10）年に制定。芥川賞は新聞・雑誌（同人雑誌を含む）に発表された純文学短編作品、直木賞は新聞・雑誌（同）・単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品の中から優れた作品に贈られる。前者は主に無名・新進作家、後者は無名・新進・中堅作家が対象となる。

前期・第155回（平成28年上半期）の芥川賞は村田沙耶香の『コンビニ人間』、直木賞は荻原浩『海の見える理髪店』がそれぞれ受賞しています。